



鹿児島市で2026年2月末～4月に突出して発生した麻しん32例 ～鹿児島市保健所での対応～

| 鹿児島市保健所 所長 | 新小田 雄一

鹿児島市医師会会員の先生方ならびに関係者の皆さまにおかれましては、日ごろから鹿児島市の公衆衛生行政へのご理解・ご指導・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今回は、鹿児島市で2026年（令和8年）2月末～4月に突出して発生した麻しん32例に対する本市保健所の対応に関して述べたいと思います。

1 はじめに

麻しんは、麻しんウイルス（パラミクソウイルス科モルビリウイルス属に属するRNAウイルス）による急性ウイルス感染症です。

感染力は基本再生産数（ R_0 ）12～18の最強クラスで、インフルエンザの約10倍の感染力があるといわれています。

潜伏期間は、通常10～12日間（最大21日間）とされています。典型的な症状は、カタル期（発熱と上気道症状）、発疹期（解熱傾向から再発熱して発疹が出現）を経て、回復期に至ります。麻しんウイルスへの免疫が不十分な場合は典型的な症状を示さず比較的軽症の修飾麻しんとなることがあります。

合併症の肺炎、脳炎などで死亡することもあります（先進国においても約1,000人に1人が死亡）。また、回復後、数年から数十年後に予後不良な神経疾患の亜急性硬化性全脳炎（Subacute Sclerosing Panencephalitis：SSPE）を引き起こすこと

もあります（麻しん罹患者の数千人に1人）。

日本の麻しんワクチン定期接種は、1978年（昭和53年）10月から1回接種（対象：1歳～6歳）が始まりました。その後、2006年（平成18年）に麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）が導入され、同年4月より2回接種（対象：1歳児（第1期）と小学校入学前1年間の幼児（第2期））が開始されました。

ワクチン定期接種の効果もあり、我が国は、2015年（平成27年）にWHO（世界保健機関）により「麻しん排除状態」にあると認定されました。しかし、近年、海外では麻しん流行地域も多く、我が国において、麻しん輸入例増加と、コロナ禍以降のMRワクチン接種率低下傾向（集団免疫には95%以上の接種率必要）も相まって、国内発生例も増加しています。国内報告数は2008年（平成20年）以降、2026年（令和8年）7月15日現在547名の過去最多ペースであり、本市・県においても特に4月時点は全国でも突出した感染拡大の状況でした。（図1、2）

2 対応方法

麻しん発生対応として、行政検査を含む疫学調査および市民・関係機関への周知・リスクコミュニケーション等を実施しました。

2.1 行政検査

医療機関から発生届（疑似症含む）を受理後、同医療機関および行政検査機関（鹿

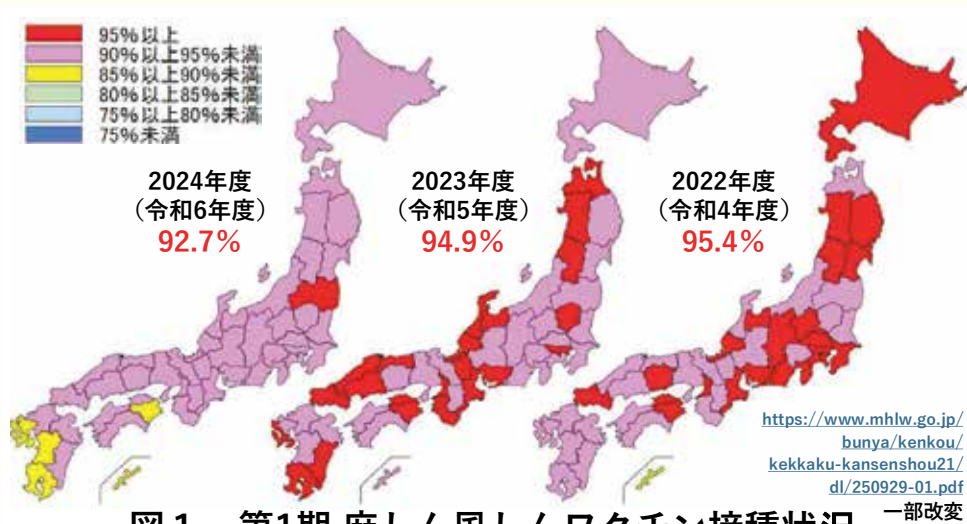


図1. 第1期 麻しん風しんワクチン接種状況

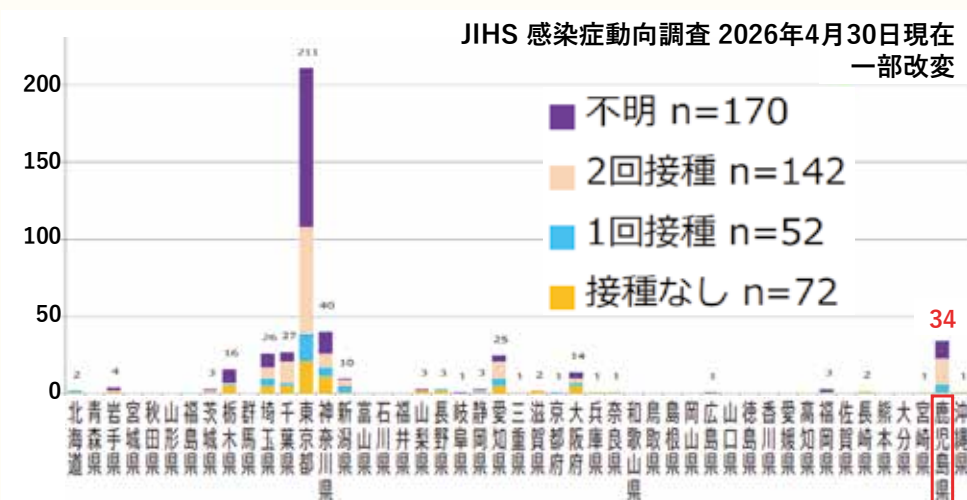


図2. 都道府県別麻しん累積報告数 2026年 第1～17週 (n=436)

児島県環境保健センター)との検体採取(咽頭ぬぐい、血液、尿)、検体搬送時刻等の調整を行い、保健所職員が検体受取・搬送を行いました。

当初、行政検査は発生毎随時に行ってもらいました。発生数増加に伴い、新型コロナウイルス感染症流行拡大時と同様にさらなる急増時にも対応できる体制を目指し、検体搬送を午前と午後の2回に時刻設定し効率的な検査体制となるように行政検査機関とも調整しました。また、庁内チャットで検査状況を関係職員と情報共有できる体制にしました。2026年(令和8年)2月末～4月での全検査92件のうち陽性は32例、1日最大検査件数は6件でしたが、このように発生急増時にも対応できる体制を整えることができました。

2.2 疫学調査

1例目発生時は、感染症対策課職員がPPE着用のもと対面での疫学調査を行いました。保健所職員の麻しん抗体価検査は定期的に行っていますが、2回接種済でも十分な抗体に達していない職員がみられたことと、1例目は典型麻しんの症状を有していたことから、2例目以降は職員への感染防止のため電話での疫学調査に移行しました。急増時に備えて、感染症対策課以外の保健師の疫学調査応援体制や応援職員も対応できるように「保健所における麻しん対策・対応ガイドライン」(最新は第3.1版)に準じて疫学調査マニュアルも再整備しました¹⁾。また、行政検査と同様に庁内チャットで情報共有できるようにもしました。

本市で2026年(令和8年)2月末～4月

に計 32 例の発生がみられました（1 例目：発症 2 月 26 日、陽性確定 3 月 6 日、32 例目：発症 4 月 17 日、陽性確定 4 月 19 日）。（図 3）

発生 32 例の年代別数は 10 代 12 例、20 代 5 例、30 代 4 例、40 代 9 例、50 代 2 例で、ワクチン接種歴は未接種 2 例、不明 8 例、1 回 5 例、2 回以上 17 例でした。

高等学校卒業式参加者（1,000 名弱、生徒約 630 名（約 97% ワクチン接種済））から 13 例の集団感染もみられました。13 例の内訳は、生徒は 8 例（未接種 0 例、1 回 1 例、2 回 7 例）、保護者は 5 例（未接種 1 例、不明 3 例、1 回 1 例、2 回 0 例）でした。

全 32 例中、要入院は 3 例（未接種 1 例、不明 1 例、1 回 1 例）でした。二次感染は 4 例（要入院者 3 例、家族内 1 例）から発生しましたが、

2 回接種例からはありませんでした。

32 例目以降は、7 月 17 日現在まで新たな発生はみられておらず、一般的な終息の目安とされる最大潜伏期間の 2 倍（麻しん：最大潜伏期間 21 日 × 2=42 日間）は経過しました。

2.3 周知・リスクコミュニケーション

2.3.1 市民向け：

本市ホームページに麻しん注意喚起ピックアップバナー（鹿児島大学感染症専門医養成講座（以下、鹿大）作成動画含む）を設け、Instagram 等でも、「麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ連絡の上、受診してもらうこと」、「受診の際はマスクを着用し、公共交通機関の利用を控え

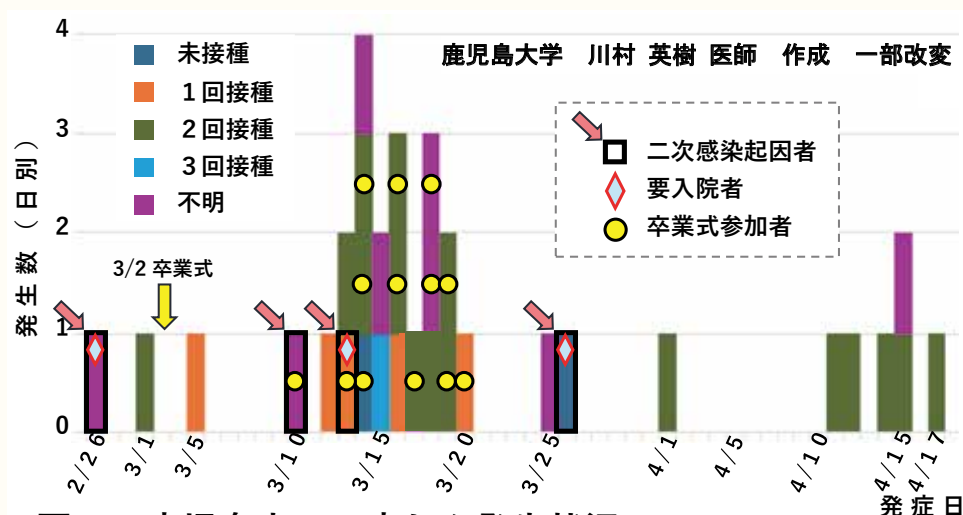


図3. 鹿児島市での麻しん発生状況 2026年2月末～4月(n=32)

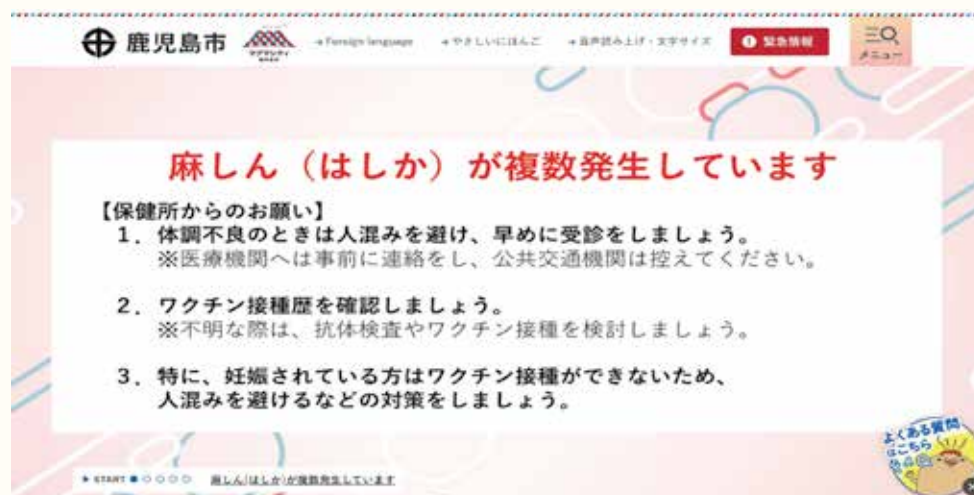


図4. 鹿児島市HPでの麻しん注意喚起ピックアップバナー

3 考察

本市で2026年（令和8年）2月末～4月に集団感染を含む32例と突出した麻疹発生がみられました。高等学校卒業式関連の集団発生（13例）はありましたが、関係機関との連携・協力体制や感染症対策課職員の丁寧な疫学調査で、ほぼ感染経路は推定できました。

今回はワクチン2回接種者でも感染がみられました。2回接種者での感染発生は、小中学校生からではなく、高校生以上でみられています。2回接種後約10年経過により抗体価が減弱する例があることが疑われます。

2回接種者でも感染がみられることで、「予防接種は効果がないのでは？」という意見もでてきてはいますが、集団発生となった高等学校卒業式参加は、1,000名弱（生徒約630名（ワクチン接種済約97%）でしたが、発生13例（生徒8例）と二次感染も2例にとどまりました。参加生徒の約97%がワクチン接種済だったことも、感染まん延抑制に繋がったと思われます。感染した生徒8例は2回接種後10年前後経過し抗体価が減弱してきたのではと考えられますが、参加生徒数と感染者数を比較すると2回接種は感染予防にも寄与すると推測されます。また、本市での感染発生全32例のうち2回接種者からは入院を要した例や二次感染はみられませんでした。このことは少なくとも重症化と二次感染予防には有効と考えられます。改めて、ワクチン2回接種の重要性が示唆されました。

コロナ禍で得られた知見等を踏まえ、国は2024年（令和6年）に「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」を改定しました。それに基づき鹿児島県は2025年（令和7年）に県行動計画を改定し、本市は2026年（令

和8年）「鹿児島市新型インフルエンザ等対策行動計画」を改定しました³⁾。改定計画では、準備期、初動期、対応期の3期に分け、平時の取組を充実させることや、双方向のコミュニケーションに基づくリスクコミュニケーションを行うことが明記されています。今回は、かねてからの顔が見える関係性が活かされ、市医師会をはじめとした関係機関とも早期からのリスクコミュニケーションが適切に行えたことにより、感染まん延抑制に繋がったとも考えています。

謝 辞

本市保健所の麻疹発生対応に多大なご協力をいただきました、鹿児島市医師会理事 川上雅之 先生、鹿児島大学感染症専門医養成講座 川村英樹 先生、鹿児島県環境保健センター微生物部、鹿児島市医師会会員の先生方、および、関係機関の皆さま方にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 保健所における麻疹対策・対応ガイドライン第3.1版 令和8年5月
<https://id-info.jihs.go.jp/manuals/guidelines/measles/guideline-phc03.1-20260508.pdf>
- 2) 事務連絡 厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策課 新型インフルエンザ等感染症等の患者発生時における個別事例情報の公表の考え方について 令和7年7月2日
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001512277.pdf>
- 3) 鹿児島市新型インフルエンザ等対策行動計画 令和8年3月
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kenkofukushi/hokenjo/hosei-soumu/documents/kagoshima-sikoudoukeikaku-zentai.pdf>